



感染症とグローバル社会 —— 平等な福祉は可能か

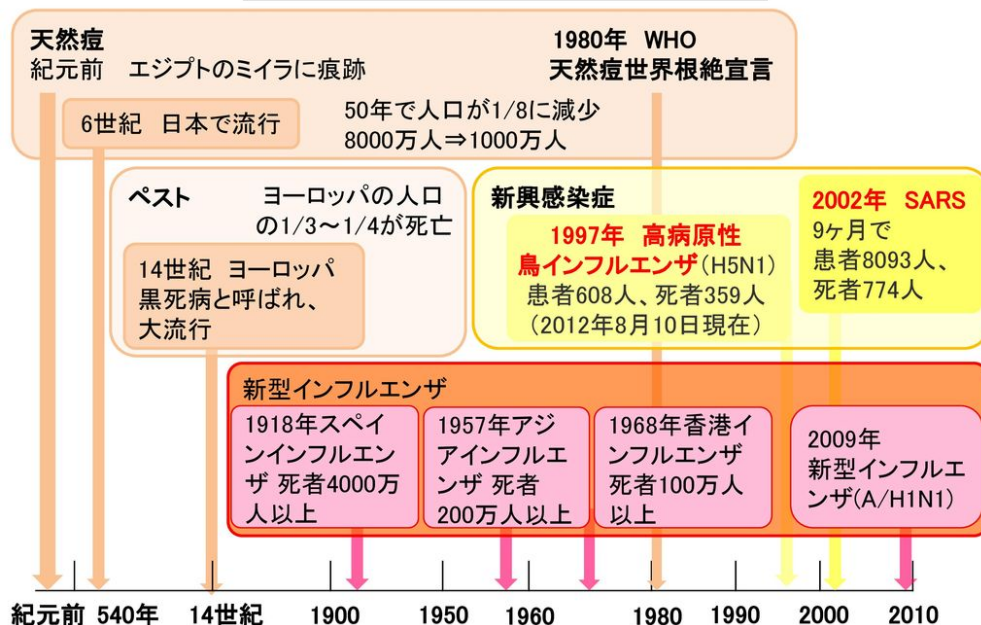
現在、新型コロナウイルス肺炎で世界は揺れています。ヒト、モノ、情報の移動が高速化し、グローバル化した世界で、この感染症はまたたく間に世界中に広がり、社会と人々に大きな動揺を与えています。

振り返ってみれば、感染症はこれまでも何度も世界的な大流行を起こし、そのたびに人々の意識や社会を根本から変えるほどの大きな影響を与えてきました。他方で、感染症の流行が医療や福祉を発達させ、さらに都市化が進んだ近代以降においては、公衆衛生という概念を促進させました。公衆衛生は、病気や死の問題を、生物学・医学的見地からだけでなく、環境や社会とのつながりから考え、地域全体として健康への脅威を減らしていこうとする概念です。そこには当然、社会とそこに暮らす多様な人々に向けた福祉の提供も含まれています。

しかし、現在進行中の新型コロナウイルス肺炎対策は、国や地域ごとに大きく異なっています。「すべての人」の「健康と福祉」を守ることができる防疫対策の正解はあるのでしょうか。そもそも、あるべき福祉の姿は、世界に共通なのでしょうか。

実は、今回の世界各地の感染症対策には、それぞれの国や地域の歴史（感染症の経験）、社会や政治のあり方、さらには生活習慣や死生観など文化的な要素も大きな影響を与えていると言われます（この問題を考えるひとつの事例として、スウェーデンの新型コロナウイルス肺炎対策について述べた記事を紹介します。→「スウェーデン新型コロナ「ソフト対策」の実態。現地の日本人医師はこう例証する」、Forbes Japan、2020年5月7日 <https://forbesjapan.com/articles/detail/34187/1/1/1>）社会と人の多様性をふまえつつ、全ての人に健康と福祉を提供するにはどうしたらよいのか、感染症という今日の前にある問題を入り口に、考えてみましょう。

人類を脅かす感染症 ～世界的な大流行の歴史と脅威～



<https://slidesplayer.net/slide/11568630/>

「都道府県・市町村担当者を対象とした新型インフルエンザ等対策特別措置法に対応するための医学的・公衆衛生的知識」より

考えるヒント：

- ✓ 過去の感染症に、人々はどう対応し、社会はどのように変化してきたのか。
- ✓ 現在進行形のコロナ肺炎対策に地域差があるのはなぜか。